

19年アジアの注目政治イベント、インドネシア選挙

インドネシアでは5年毎に大統領選挙が行われます。今年4月の大統領選挙では、通常別日程で行われる議会選挙、地方選挙も同日に実施されます。再選をかけるジョコ大統領と、前回の雪辱を期するプラボウォ党首がインドネシアの今後をかけて戦う選挙戦、残り3カ月をきりました。

インドネシア大統領選挙：投票を3ヵ月後に控え、テレビ討論会始まる

インドネシアでは2019年4月17日に大統領選挙と議会選挙が同時に行われます。大統領選挙の選挙期間は18年9月に始まっており、再選を目指すジョコ・ウィド大統領に対し、野党陣営は、グリンドラ党のプラボウォ党首が対抗し、前回、14年の大統領選挙の再現となっています。

大統領選挙は徐々に本格化し、1月17日には正副大統領候補の第1回テレビ討論会が開かれました。

どこに注目すべきか：インドネシア、大統領選挙、インフレ率

インドネシアでは5年毎に大統領選挙が行われます。今年4月の大統領選挙では、通常別日程で行われる議会選挙、地方選挙も同日に実施されます。再選をかけるジョコ大統領と、前回の雪辱を期するプラボウォ党首がインドネシアの今後をかけて戦う選挙戦、残り3カ月をきりました。

まず、インドネシア大統領選挙の今後の流れを振り返ります。3カ月の選挙戦では第1回目を含め合計5回テレビ討論会が予定（一部スケジュール未定）されています。4月14日からは選挙キャンペーンが禁止され、4月17日に投票となる運びです。

なお、選挙結果の公表は前回（14年）は半月程度遅れており、今回も結果の公表はある程度遅れそうで、大統領の就任は、（前回同様）10月頃と見られています。

現在の支持率ですが、再選を目指すジョコ大統領が過半数から6割程度の支持を獲得する一方、プラボウォ党首は3割強と20%程度の差がついています（図表1参照）。現職の強みからか、選挙戦折り返し時点となる現段階では選挙戦を優位に進めています。

ただし、前回の大統領選挙でも序盤はジョコ氏がリードしていましたが、最終的な得票率はジョコ氏が約53%で、プラボウォ氏との得票差はわずか6%程度にまで接近しました。残り4回予定されているテレビ討論会などの結果によっては形勢逆転のシナリオも想定する必要があります。なお、

人権、汚職、テロ等をテーマとした第1回テレビ討論は、お互いに用意したメモを読んでいる印象で、ガードが固い討論との評価となっています。ただ、今後は経済政策や安全保障などがテーマとなり、活発な議論の展開も想定されます。

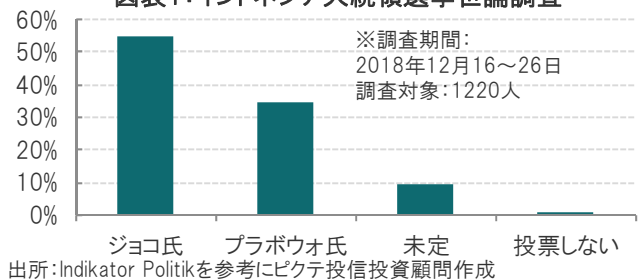
最後に、二人の候補の違いや、特徴を簡単に述べます。

ジョコ氏は現職大統領として過去の実績と今後の課題を訴える戦略と見られます。ジョコ氏は就任後経常赤字や財政赤字の原因であった燃料の補助金を事実上撤廃、その後の通貨高などを受け消費者物価指数(CPI)は前年比3%台に低下させたのが実績です。ただ、GDP(国内総生産)成長率は安定するも伸び悩みで、今後の課題と思われます。ジョコ氏は代名詞でもある庶民派の路線は維持しています。

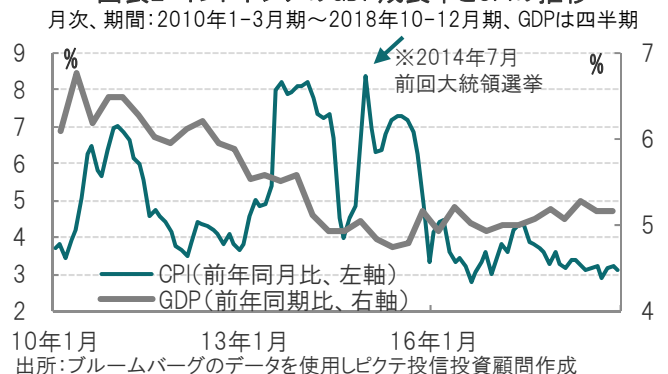
プラボウォ党首は軍出身で、強いリーダーシップにより開発主導の経済成長を目指す模様です。プラボウォ陣営は副大統領候補が大手投資会社創業者であることなどから資金力は豊富で、メディア戦略に活路を求め模様の様子です。

仮にジョコ氏苦戦となると、ルピアへの下落圧力も場合によっては想定されますが、足元は落ち着いた状況です。

図表1：インドネシア大統領選挙世論調査



図表2：インドネシアのGDP成長率とCPIの推移



●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。